がん化学療法の Syniotics 投与が
消化管に及ぼす影響について

〇久保 文1, 枝元 由季子2 大橋 朋子2 井原 加代子2 関 譲子2 平手 ゆかり2 中村 瑞穂4 富田 由里子9 尾阪 ひかり3 丸伊 陽子3 比井 美紀5 尾関 小百合3 杉本 昭子2 小林 孝美2 名越 麻里子2 岩本 弘子3 小戸 千子3 井藤 亮生2

独立行政法人 労働者健康福祉機構 神戸労災病院 营業管理部
検診科 2 シリバリテーション科 3 看護部 4 消化器内科 5 外科 6

【背景】がん剤投与時に患者が自覚する消化器症状は、副作用の中で最も頻度が高く、患者の quality of life (以下、QOL) に大きく影響し投与中止をさせるを得ないこともあります。Syniotics には、有害菌の増殖を抑制し、宿主の免疫力を増強し、さらに宿主の腸管機能を賦活化する作用を有することが認められている。

【目的】がん化学療法を施行される患者を対象とし、Syniotics を投与することによって、消化器症状の軽減、食事摂取量の増加、抗がん剤投与の継続性の向上に繋げられるのではないかと考え検討を行うこととした。

【方法】対象患者：当院、外科・消化器科・呼吸器科で扱う切除不能な進行・再発の胃癌、大腸癌および肺癌（非小細胞肺癌）の患者17名（男性11名、女性6名）。

期間：2009年10月～2010年11月
検討項目：消化器症状の有無、がん化学療法の継続性、血液学的検査値、食事摂取量調査を行い、また Syniotics 飲用の継続性についても検討した。摘出の評価として DAO 活性の測定を行った。

【結果および考察】対象患者17名（Syniotics 飲用群8名、Syniotics 非飲用群9名）、抗がん剤投与を行ったのは合計41コースであった。何らかの理由で抗がん剤投与を延期したコースは、飲用群で52回、非飲用群で36回であった。Syniotics は継続して飲用ができ、また抗がん剤投与の継続性の向上に有用であると思われた。Syniotics 投与における消化器症状、食事摂取量、また DAO 活性の変化について若干の文献的考察を加えた報告する。